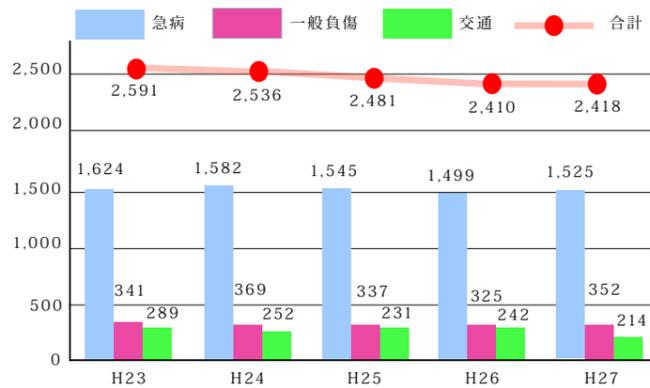


過去5年間の救急件数



**救急**  
2,418件

8月の出動、月平均の1.4倍  
救急件数は、前年から8件増加し2418件でした。月別出動件数が最も多かった8月は、月平均の1.4倍に当たる285件となりました。種別ごとの件数は、急病が1525件(全体の約63%)で平成21年以降毎年60%以上を占めており、一般負傷が352件(全体の約15%)、交通事故が214件(全体の約9%)でした。

救急車による搬送人員は、前年から41人増加し、2296人でした。

**24時間運用のヘリポートの必要性**

ドクターヘリと連携して活動した件数は144件(全体の約6%)でした。ドクターヘリは、早期医療介入による救命率の向上、重症患者の後遺症軽減を図ることを目的として運航されています。

本市では、さらなる救急・防災体制の充実のため、ヘリ場外離着陸場の整備を図り、ドクターヘリ及び消防防災ヘリ等を有効に運用できる体制の整備に努めています。

引き続き、市民の皆様のご理解、ご協力をお願いします。



▲連携して活動する救急車とドクターヘリ

統計で見る京丹後の実態

平成27年中の市内の火災、救急、救助等、消防に関する各種の統計調査結果をお知らせします。



消防長 河野矢秀

～安心、安全の京丹後をめざして～

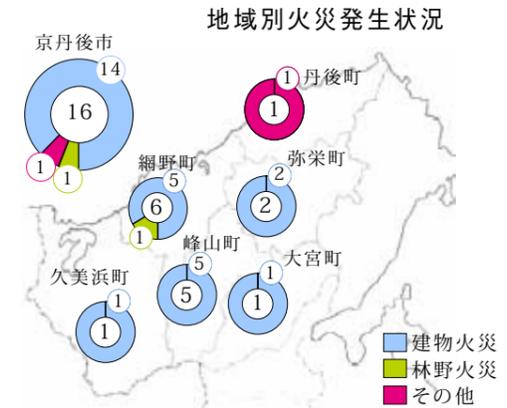
今年度は、いよいよ本市まで鳥取豊岡宮津自動車道が延長される予定で、多くの観光客が訪れることが期待されています。一方、記憶に新しいですが、本年1月には長野県軽井沢町で大型バスが道路脇に転落し多くの死傷者を出す事故が発生しており、本市においても類似した事故の発生が懸念されます。

市消防本部では昨年最新の高性能消防指令システムと消防救急デジタル無線を整備し、より一層の消防活動の迅速化と効率化を図るなど、誰もが「安心で安全」に暮らせるまち、訪れることのできるまちを目指し、職員一丸となって取り組んでおります。市民の皆さんの一層のご支援とご協力をお願いいたします。

**火災**  
16件

火災6年ぶりに20件下回る  
平成27年中の火災件数は16件で、6年ぶりに20件を下回りました。その内訳は、建物火災が14件、林野火災が1件、その他火災が1件でした。

火災による死者は発生しませんが、負傷者が前年より1人増加し3人となりました。



# 消防の広場

## 119

火事・救急・救助

ついでに  
住宅用火災警報器

半年に一度は作動確認



▲119番通報を受信する通信指令室員

**通信**  
3,606件

相談・問合せ等は  
☎62・0119へ!

119番通報の受信件数は、前年から81件増加し3606件でした。そのうち、災害に関する通報は2161件(全体の約60%)でした。

それ以外には、相談・問合せ等による受信が728件(全体の約20%)あり、過去最多となりました。

119番は緊急時の専用回線です。相談・問い合わせなど、緊急以外の場合は☎62・0119へお掛けください。

**住宅用火災警報器は10年を目安に交換を!**

新築住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されて10年たちます。

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、10年を目安に交換をお勧めします。本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入して交換時期が分かるようにしておくといでしょう。

いざというときに住宅用火災警報器が作動するよう、半年に一度を目安に動作確認し、設置場所や警報音を家族で確認しましょう。

ピーピーピー、火事です

注)警報音はメーカーや製品により異なります。

火災の原因で最も多かったのが「こらろ」によるもので3件、次いで「ストーブ」によるものが2件でした。火気器具等の取り扱いの不注意による火災が多く発生していますので、十分注意してください。

救急119

熱性けいれん  
市消防本部救急救命士 安達 貴史

熱性けいれんとは、乳幼児(6カ月～5歳ころ)が高熱を出したときに一緒に起こす「けいれん」のことです。症状は、急に手足をピンと強くこわばらせることが多く、その後全身をブルブル(ガタガタ)ふるわせます。目は焦点が定まらず、口から泡を吹くこともあり、けいれんは約30秒～数分間続きます。

子どもさんの状態を見て焦ってしまふ方が多いですが、ほとんどが危険なものではありません。けいれんが起きた場合は、焦らずに、まずは衣服を緩めてあげてください。嘔吐があれば顔を横に向け、口や鼻を拭いてあげましょう。舌などをかまないように物をくわえさせることがあります。逆に口の中を傷つけたり、窒息するおそれがありますのでやめてください。

けいれん時の状態や体温、持続時間などは、病院での診察や治療に必要ですので、正確に救急隊や医師に伝えてください。



▲救助訓練を実施する隊員

**救助**  
28件

交通事故による  
出動件数が過去最少に

救助出動件数は、前年に比べ17件減少し28件でした。減少の要因は、交通事故による出動が9件と過去最少であったことがあげられます。事故種別に見ると、交通事故が9件(全体の約32%)、水難事故が6件(全体の約21%)と上位を占めました。

死者は7人発生し、交通事故と水難事故によるものがいずれも2人、その他の事故によるものが3人でした。